

## 京都大学文学研究科修士課程修了者アンケート・集計と総括

平成24年3月26日実施分

((アンケートの概観と分析))

ここでは、一昨年度の修士修了者アンケートとの比較を通じて見られる今回のアンケート結果の特徴を概観し、その背景的な傾向について分析する。アンケートの具体的な集計結果はこの概観と分析の後に付してある。

### A) アンケートの概観

1) 一昨年度実施のアンケートには76人が回答を寄せたが今回は60人であった。

2) アンケートの回答を総括的に概観する限り、この二年間の間に、終了生の研究経験への意識に大きな変化があったことは認められない。各設問ごとにさまざまな増減はあるが、きわめて目立った相違や際立った増加、減少が見られるわけではないので、修士課程修了者の評価はほぼ安定していると言える。

3) しかし、個々の設問においては、多少とも興味深い変化が認められる。  
**設問1** (出身校) = 一昨年に比して、京都大学文学部からの入学者の割合が増えていると同時に、日本以外の大学からの入学者も増えている。

**設問2** (大学院進学決定の時期) = 学部から大学院への進学の決定は、一昨年度では3回生分属の後が大多数を占める。これにたいして、今年度も3回生分属後の数は多いが、同時に、学部進学直後の者もあり、反対に4回生になってからも少なくなく、全体として決定時期がまちまちである傾向が強まっている。

**設問3** (大学院進学動機) = 進学の動機にかんしては二年間でほとんど変化がない。どちらの調査でも、「専攻している分野についてさらに深く学ぶこと」を動機にしている者がもっとも多い。

**設問4** (「自由の学風」をめぐる理解や評価) = どちらのアンケートでも、「自由の学風」ということで「自学自習の能力の養成」を意味すると理解している者が大半である。ただし、この能力の養成が十分に行われていると考える者の割合は、二年前よりも今年のほうが非常に多くなっている。

設問5（修士課程での勉学・教育についての満足度）＝二年間でほとんど評価に変わりはない。4割近くの者が「十分に満足」、5割の者が「それなりに満足」と答えている。

設問6（終了後の進路）＝二年間でほとんど意見に変わりはない。5割が「博士課程進学」、2割が「一般企業に就職」、1割が「官庁・自治体」と「教育職」にそれぞれ就職している。

設問7（勉学経験は何に役立つか）＝二年前には「専門的知識・能力」と答える者が非常に大きな割合を占めた。この傾向は今年度もあまり変わらないが、それ以上に「自分で問題を発見し、解決する能力」と答えている者が多いことが目立っている。

## B) 分析

1) アンケート回答数の減少は必ずしも歓迎すべきことではない。とはいえ、これには修士課程の修了者の数の減少も影響しているので、必ずしもアンケートへの消極的な態度が反映されているとは考えられない。いずれにしても今後ともこの種の調査への積極的な取り組みは継続されうべきであろう。

2) アンケート回答を全体として概観したとき、評価の傾向が二年前とほとんど変わっていない点は、文学研究科の教育・研究のレベルや、大学院生の求めるもの、勉学において志向する方向に変化がないことを示しているであろう。

3) 大学院進学の実定の時期がかつてよりもまちまちになりつつある傾向があることには、いろいろな要因があるように思われる。たとえば、進路決定のために学生が接する情報がますます増えていることが、決定過程を複雑にしている可能性もある。また、社会全体の経済的状況の変化が大きく関係していると思われる。さらに、人文学研究の意義に対する考え方にも多様化が生じていると見ることもできる。これらの要因については、今後とも文学研究科全体で考察や評価が必要となるところである。

4) 「自由の学風」に対する高い評価と、大学院での教育・研究の意義についての「自主的な判断能力の強化」に対する重視から見ると、大学院生の求める研究の方向において、独創性、自主性への要求の増大ということが認められるよ

うである。この点をどのように支援し発展させられるかという点に、文学研究科の今後の活動の焦点の一つがあると考えられることもできる。

5) 以上のように、今回のアンケートを通じて、幾つかの評価の焦点に光が当てられるようになったことは、少なくない意義をもつものと思われる。いずれにしても、今後ともこのようなアンケート集計を継続し、学生の意識の変化を追跡調査していくことで、組織としての文学研究科の自己点検や評価の基礎資料を蓄積していくことがきわめて重要であろう。

((アンケート集計結果))

**1. あなたの出身大学・学部等についてお聞きします。**

a. 京都大学以外の日本国内の大学	11人	17%
b. 京都大学の他学部、研究科等	3	4%
c. 京都大学文学部	38	60%
d. 日本以外の大学	11	17%
e. その他		

**2. あなたが大学院へ進むことを決めたのはいつ頃でしたか？**

a. 学部入学後	14	22%
b. 系分属後（2回生のとき）	2	3%
c. 専修分属後（3回生のとき）	20	31%
d. 4回生になってから	18	28%
e. 大学卒業後、社会に出てから	8	12%
f. その他（高校3年）	1	1%

**3. 進学動機のなかで重要な位置を占めたのはどのような要因でしたか？（複数回答可）**

a. あなたが選んだ研究分野についてより深く学びたいと思った。	43	68%
b. 大学院での研究・教育が思考力の向上に役立つと思った。	13	20%

c. 将来、研究・教育職に就くことを希望していた。

21 33%

d. 企業等に就職する前に、もう少し学問を続けたいと思った。

15 23%

e. その他（専修免許を取得するため） 1 1%

（海外でのフィールドワークがしたかった）

1 1%

4. 京都大学は「自由の学風」を伝統とし、「自学自習」を基本的な理念として  
いますこれに関連して、あなたは文学研究科での授業、研究指導について、ど  
のように考えますか？

a. 自学自習の能力が十分に養われるような形で行われている。

27 42%

b. 自学自習の能力がある程度養われるような形で行われている

27 42%

c. 自学自習の能力が養われるような形で行われているかどうか、どちらとも  
言えない。

7 11%

d. 自学自習の能力が養われるような形で行われていない。

1 1%

e. その他（自由の学風など教員のほったらかしの口実）

1 1%

5. あなたは文学研究科で学んだことに満足していますか？

a. 十分に満足している。 24 40%

b. それなりに満足している。 30 50%

c. どちらとも言えない。 6 10%

d. 後悔している。

e. その他

6. 4月以降の進路についてお聞きします。

a. 博士課程進学（他大学も含む） 27 48%

b. 博士課程進学の前準備

c. 一般企業に就職	11	19%
d. 官庁、地方自治体等に就職	6	10%
e. 教員、司書等の専門職に就職	5	9%
f. その他（晴耕雨読）	1	1%
（就職活動）	2	3%
（美術館学芸員）	1	1%
（研究生）	1	1%
（留学）	2	3%

7. 文学研究科で学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるものを挙げてください。（複数回答可）

a. 専門的知識	32	50%
b. 専門分野の研究能力	36	57%
c. 自分で問題を発見し、解決を図る能力	41	65%
d. 一般的な教養	19	30%
e. 国際感覚	11	17%
f. 外国語の能力	21	33%
g. リーダーシップ	2	3%
h. 社会的常識	8	12%
i. その他（日本語力）	1	1%
（バランス感覚）	1	1%

8. お差し支えなければ、あなたが属していた専攻をお教えてください。

東洋文献文化学	10
西洋文献文化学	5
思想文化学	13
歴史文化学	11
行動文化学	18
現代文化学	3

9. その他意見・要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

・教務の方々には、早く社会人としての対応能力をつけて頂きたいです。後輩た

ちのためにもここでお伝えしておきます。

- お世話になりました。事務の窓口での対応がもう少し丁寧にしていただけると幸いです。
- ありがとうございました。
- 研究する上での語学力の重要性はこれから入ってくる学生に対してもっと強調すべきだと思う。
- 専門家の話ほどあてにならないということを知れたことが、大学院での一番の収穫だった。研究は社会人になってからも続けるつもりでいる。
- 自学自習の反面としてこちらから希望すれば教員の側からのフォローアップを常にいただけたので、非常にありがたい経験をさせていただきました。
- 教務掛の方の接し方が少し厳しいと思った。